

## *Genius English Course I・II Revised*

# What a Collection of Amazing and Amusing Stories!



同時・放送通訳者  
石黒弓美子

### ◆Human brains and stories

20年ほど前のことになりますが，若い人たちに哲学の魅力を伝えたいと『ソフィーの世界』という哲学史の入門書を書いた，ヨースタイン・ゴルデル氏の通訳をしたことがあります。ノルウェーの高校で哲学の教師をしていたゴルデル先生は，何とこの本を「知識」という意味を持つソフィーという名の女の子を主人公にしたファンタジー仕立てのミステリー小説にしあげました。

ベストセラーとなったこの本の日本語版の出版にあわせて日本を訪問されたゴルデル先生の通訳をしていて印象に残った言葉が今でも忘れられません。それは，“Human brains are made to understand stories the best.”（人間の頭脳は物語をいちばんよく理解するように作られている）という言葉でした。*Genius English Course I・II Revised*（以下 *Genius I・II*）を読んで，ゴルデル先生のこの言葉の意味を，改めて深くかみしめました。

*Genius I・II* には，驚くような，そして楽しくもまた感動的な物語が次々と登場して，学習者は英語の世界を探訪しつつ，国際世界への目を開くことができます。感動は，私たちが動かす原動力です。特に若いころの感動は，私たちの視野を広げ，行動へと突き動かす大いなる driving force です。コミュニケーションの道具としての英語に対する感動が筆者を今の通訳という職業へ導いてくれたように，高校生によっては，これらが自分が進みたい道を開く突破口にもなってくれ

ると思います。

### ◆Discovery after discovery

*Genius I・II* の各章は，「そうなんだ！」という発見に溢れています。例えば，I-1 The World of Street Performers を読むと，日本人としての自己の再発見があるでしょう。II-2 The Functions of Language では，「言語ってそんな機能があるんだ」ということを教えられます。また，I-8 Ant Communication や II-9 Sensitive Plants には，「互いにコミュニケーションをとったり，感情を備えているのは人間だけではないんだ！」という驚きの発見が待っています。

そのほかにも，自転車や和紙のこと，ロック・クライミングや南極大陸横断を試みたシャクルトン隊の物語も，驚きとともに心に残ります。

### ◆What a wonderful world!

この世界には悲しいことがたくさんあるけれど，世の中捨てたものではない，僕だって，私にだって，世の中の役に立つ力があるはずだと，勇気を与えてくれる物語もたくさんあります。

「本当に貧しいとはどういうものなのか」に目を開かせてくれると同時に，人間の思慮深さと教育への熱意がいかに人を動かすかを思い知らされる I-3 Proud Panther。物語のタイトルと添えられた写真が，読者の想像力を少女の歩くアフリカの長い道のりに飛翔させます。

さらには，思いやりと智恵と決意とで，貧困撲



滅の道も開けることを教えてくれる II-4 の The People's Bank。数年前グラミン銀行のユヌス氏が日本を訪れ、初めて通訳をする機会をいただいたとき、「『グラミン』とはバングラデッシュの言葉で『農村』という意味なのですよ」と説明してくれたその優しいお顔には、その眼の奥に「この決意こそが、成功の秘訣なのだ」と感じさせる強い光があったことを思い出します。

そして、サッカーボールを目にしたら、思い出さずにはいられなくなる I-7 の Child Labor。この文章を読んだ高校生は、4年ごとのワールドカップで興奮する度に、児童労働の問題解決に寄与したいと強く願うことでしょう。実際にそのために行動を起こしてくれる若者も増えるに違いありません。

また、I-5 Easy Japanese に、II-5 Universal Design, I-9 の My Brother's Keeper に、I-10 I Will Be There for You は、いずれも「真の多様性の尊重とは何か」「本当の思いやりとは何か」を教えてください。人の立場に立つということは、どんなことなのか、具体的に示されています。

1つ1つの課が、自分の恵まれた環境や周囲の人々に感謝せずにはいられない事実を思い起こさせ、「自分にもできることがあるはず」という行動に、読者を突き動かさずにはおきません。

人生の楽しさを伝えることも忘れられていません。I-6 の Pink Bow Tie, リーディング教材として出てくる The Vicar's Pleasure や Table for Two は、最高におしゃれで楽しい物語です。

筆者は *Genius I・II* のどの文章にも、編集に携わった方々の対象学習者への「愛情」と教育への強い「熱意」を感じます。世界にはこんなことがある、人生にはこんなに大切なことがある、それを知ってもらいたい。そして自分の人生の幅を広げ、奥行きを深めてもらいたい。そして世の中の役に立てる人間に育ってほしい。それこそが、学習者の本物の幸せにつながる道だとの信念を感じ

ないではいられないテキストブックです。

#### ◆Story-telling is one of the best ways to learn

筆者は、このテキストブックを読みながら、これまでにあげなかった課を含めて、どの文章も、実にリズム感に富んだ分かりやすい文章で書かれていると思いました。実際に声に出して読みあげてみましたが、どれも、誰かに読み聞かせたいほどリズムカルな筆づかいです。そこで、最後に一つ提案したいのは、ぜひ、これらの文章を声に出して朗読し、あるいは暗記して語りにしてみてもどうかということです。

朗読や語りに、文章をよく理解することが大切です。それぞれの文が、どのような思いで書かれたのか、深く考察し理解できて初めて人の心を動かす語りができます。声に出して語ることで、自分の理解が、適切な音声表現として表出しているかどうかわかります。いろいろな声で、いろいろな口調で声に出して読む、できれば自分の言葉のように語ることで、さらに文章の意味の理解が深まります。

また、人前で語るということには、語彙や語順を覚えるだけでなく、自分の殻を破るという大きな効果があり、語り手の自信につながります。実際にやってみると、とても楽しい経験です。

はっきり言って、最初はみんなへたくそです。しかし、根気よく続けることで、少しずつ自信をつけ、最後には大きな変化が期待できます。筆者は実際に語りをする大学の public speaking のクラスで実践していますが、毎回指導をしながら、よくなった点を指摘し、「よくなった、よくなった」とくりかえしほめたたえます。すると、言葉の力も手伝ってか、学生たちは見違えるようになり、自信を深めていきます。*Genius I・II* の素晴らしい物語たち。ぜひ、語って聞かせてほしいと思います。

(いしぐろ ゆみこ・同時/放送通訳者)